

2012年3月5日から4週間、シアトル小児病院の研修に参加してまいりました。外科から誰か参加するようにとわれながら、人手が少なかったせいでなかなか参加できず、今回初めて私が外科を代表して参加することになりました。直前に体調を崩していて、若手の先生を対象とした研修に持病持ちの厄も明けてしまったような年齢の私が参加することに少々不安はありましたが、非常に有意義な研修を受けることができました。以下に、研修で聞きしたシアトル小児病院の外科の診療を、特に手術を中心に書かせていただきます。

シアトル小児病院の外科の体制は、スタッフ11名、フェロー2名と、5、6名のレジデントで構成されています。スタッフはワシントン大学のポストも兼務しており、シアトル小児病院の部長とワシントン大学の教授のポストを兼務しているワルドハウゼン先生は、手術の合間も雑務をこなしており、非常に多忙そうでした。

スタッフは、ワルドハウゼン先生は移植を含めオールラウンドでこなしますが、それ以外の先生は、アバンシノ先生は直腸肛門奇形、ヒーリー先生は移植、ミーハン先生はロボット手術というように、それぞれ担当領域が決まっていました。手術件数は2011年は2587件で、当院外科のおよそ2倍の件数でした。医療圏が、シアトルがあるワシントン州だけでなく、アメリカ北東部の州やカナダの西海岸地域、アラスカ州などもカバーしているためこれだけの手術件数があると思われました。代表的な手術件数を示しますと、胆道閉鎖症手術12件、ヒルシュスプルング病手術9件、胃食道逆流症手術6件、移植17件(肝移植3件、腎移植12件、小腸移植2件)、臍径ヘルニア手術275件、急性虫垂炎手術298件となっております。

外科の大きな手術は6番の手術室で基本行われ、毎日2列から3列で行われていました。6番の手術室は、天井から鏡視下手術用のモニター、光源、各種デバイスが使用可能なツールが吊り下げられており、いつでも比較的容易に鏡視下手術が行える体制になっていました。実際シアトル小児病院の外科では、鏡視下手術に力を入れており、その質の高さには驚かされました。



多くの手術を見学させていただきましたが、その中でも強く印象に残った手術を2つ紹介させていただきます。

一つは、6か月の嚢胞性肺疾患の男児に胸腔鏡下肺葉切除術を施行した手術です。術者は1年目のフェローの先生がつとめていましたが、結紮もすべて体内で行って、かなり狭いスペースの中で開胸で施行する手術を同じ質の手術をしていました。当科でも鏡視下手術は積極的に行っているため、自分の技術にはある程度の自信を持っていましたが、自分の技術がまだまだ発展途上であることを思い知らされました。

もう一つは、1か月の肥厚性幽門狭窄症の男児に対する腹腔鏡下幽門筋切開術です。ゴールドイン先生と2年目のフェローの先生が手術をされましたが、皮膚切開から閉創まで全部含めて10分ほどで終了していました。僕はそれまで臍の上部弧状切開で行う臍内法が手術痕が目立たないことからベストな術式だと確信しておりましたが、まったく違うポリシーで同じ目的の手術をより短時間で施行しているのを見て、小児外科の奥の深さを改めて感じました。

3月22日に、ベルビュークリニックの見学に行きました。ベルビュークリニックは、2010年にオープンした日帰り手術専用の新しい施設です。その日は耳鼻科の手術日だったんですが、鼓膜チュービング、扁桃摘出術、アデノイド切除術など、朝から午後2時くらいまでで17件の手術をしていました。一つの手術室に対し、二つの麻酔導入室、7つのリカバリー室が患者・家族導線を考えて配置されていて、今後の当院での日帰り手術の方向性を考えさせられました。



小児外科のレジデントの朝回診は、毎日6時から始めていました。シアトルの3月の6時はまだ真っ暗で、患者さんもご家族もまだ寝ている人もいる中で1年目のフェローが中心となって患者を診察し、てきぱきと指示を出してました。



研修が休みの週末のちょうど妻がシアトル観光に来ていた時に、メルツァー先生にシアトルの名所を案内していただきました。ガスワークスパークからパイクプレイスマーケットを回って、最後に日本食のランチをごちそうになりました。海外出張の合間を縫っての非常にお疲れのなかご案内していただき、非常に恐縮するとともに、シアトルの美しさを改めて実感して、とても感動しました。メルツァー先生には、別の日にご自宅にディナーに招待いただきました。奥様・娘さんともお話しさせていただき、とても楽しい時間を過ごせました。



最後に、シアトル小児病院での研修を終えて思うことを書かせていただきます。

自分は結局、体調不良のなか無理して研修に参加した結果、帰国後1か月休職するという醜態をさらしてしまいました。参加する際には事前の体調管理は抜かりなくしていただきたいと思います。

たとえ今の兵庫県立こども病院での研修・仕事に100%満足していても、まったく違う環境で違うポリシーで患者さんと向き合っている施設を見学することは、とても有意義なことだと思います。参加する前に持っていた目標とまったく違った発見があったり、新鮮な驚きがあったりします。1か月という時間は長いようで短いです。この一か月間を有意義なものにするように、十分な準備をすることが大事です。

今後、この研修に参加される若い先生たちが、より良い研修をされることを願っています。なお末筆ながら、神戸万国医療財団のご支援に心より感謝いたします。